

会社概要

社名	アルプスアルパイン株式会社
英文社名	ALPS ALPINE CO., LTD.
設立	1948年11月1日
資本金	387億3,000万円(2019年9月末現在)
従業員数(連結)	41,695人(2019年9月末現在)
事業内容	オートモーティブ・モバイル・エネルギー・ヘルスケア・IoT・インダストリー各分野の各種電子部品・電子機器の研究・開発・製造・販売
ホームページ	https://www.alpsalpine.com/j/



ALPS ALPINE REPORT No.172

証券コード 6770



第87期 第2四半期報告書

アルプスアルパイン株式会社 2019年11月28日発行

株主メモ (2019年9月30日現在)

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日	株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
基準日	定時株主総会権利行使確定日 毎年3月31日 期末配当金支払株主確定日 毎年3月31日 中間配当金支払株主確定日 毎年9月30日 その他あらかじめ公告して定めた日	同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 ホームページ https://www.tr.mufg.jp/daikou/ 三菱UFJ信託銀行証券代行部 <input type="button" value="検索"/>
定時株主総会	毎年6月下旬	【ご注意】	1.住所変更、単元未満株式の買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、お取り引きのある証券会社などにお問い合わせください。 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部にお問い合わせください。 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
公告掲載	電子公告により、当社ホームページ (https://www.alpsalpine.com/j/ir/announce.html)に 掲載します。 なお、やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、 日本経済新聞に掲載します。		
上場証券取引所	東京(第一部)証券コード6770		
1単元の株式数	100株		

株式事務に関するお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行証券代行部 テレホンセンター

お問い合わせ ☎ **0120-232-711** (受付時間:土・日・祝祭日等を除く平日9:00~17:00)

ALPS ALPINE
アルプスアルパイン株式会社

〒145-8501 東京都大田区雪谷大塚町1番7号
TEL (03)3726-1211 (大代表)
(03)5499-8026 (IR部門直通)



アルプス電気とアルパインは、
アルプスアルパインへ。

ALPS ALPINE



代表取締役社長
栗山年弘

CASE: Connected, Autonomous, Shared & Services, Electric(つながる車、自動運転、シェアリング、電動化)
EHII: Energy, Health care, Industry, IoT (エネルギー、ヘルスケア、インダストリー、IoT)
IoT: Internet of Things(インターネット・オブ・シングス)
AI: 人工知能
ITC101: Innovative T-shaped Company with 10% operating income margin and 1 trillion yen sales (革新的T型企業、連結で営業利益率10%・売上高1兆円の中長期達成目標)

皆様へ

朝夕の冷え込みも厳しく、冬の到来を感じる季節となりました。皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

上半期のエレクトロニクス業界は、自動車市場では引き続きCASEへの製品開発が加速する中、足元の市況は米中貿易摩擦や欧州での先行き不透明感などから低調となりました。スマートフォン市場も、中国を中心に市場の鈍化傾向が続きました。EHIIでは、IoTを利用した新たなサービスやセキュリティ技術などが開発され、AIやロボティクスの活用なども含め、今後の成長への期待を抱かせるものとなりました。

この中で当社では、電子部品事業における車載市場で、自動車販売の世界的な減速の影響を受け、モジュール製品や通信用高周波製品が軟調となりました。一方、民生その他市場では、新規顧客開拓や拡販活動によりスマートフォン及びウェアラブル向け各種製品が堅調に推移しました。電子部品事業全体では、車載市場の減少をモバイル向け製品の増加で補いきれず、前年同期比で売上・利益ともに減少する結果となりました。

車載情報機器事業は、欧州高級自動車メーカー向けナビゲーションやディスプレイ製品の売上が好調に推移しましたが、製品構成の変化により利益は減少しました。また物流事業(株)アルプス物流では、海外の外販向け売上伸長や国内の生協関係の宅配等の拡販により、増収増益となりました。

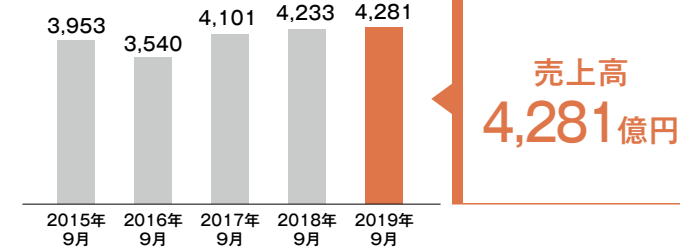
さてこの度、当社の創設日である11月1日に経営統合を受けて新たな「企業ビジョン」を制定しました。経営や行動の羅針盤として、目指すべき普遍的な価値観を示すこの企業ビジョンは、「企業理念」「経営姿勢」「事業ビジョン」の三つで構成されています。

企業理念 : アルプスアルパインは、人と地球に喜ばれる新たな価値を創造します。
経営姿勢 : 価値の追求 地球との調和 社会への貢献 個の尊重 公正な経営
事業ビジョン: Perfecting the Art of Electronics

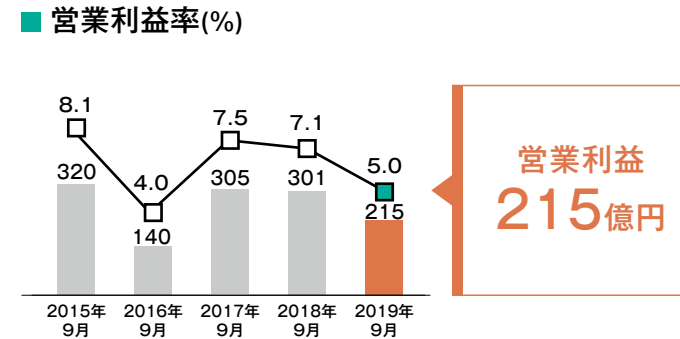
「Art」に込めた想いは、例えば心地よいクリック感のスイッチや、心に響くサウンドオーディオなどの、人に優しく感動を与える製品を追求することです。そして「Art of Electronics」には、Right、Unique、Greenの3要素を兼ね備えた製品だけでなく、社員の行動や事業活動にもつながります。Rightは市場やお客様の求める機能・品質・コストに過不足なく応えること、更に社員が自らの行動を「人として正しいのか、会社にとって正しいのか」を常に自問することを表しています。Uniqueは独自性と差異化した製品やものづくり活動を表し、Greenは製品だけでなく企業活動でも環境への優しさを追求することです。今後、この企業ビジョンを胸に刻み、「ITC101」の実現に向けて全社を挙げて取り組んでまいります。

最後に、当期の中間配当は1株当たり20円とさせていただきます。今後も皆様のご期待に応えられるよう、努力を重ねてまいります。今後も変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

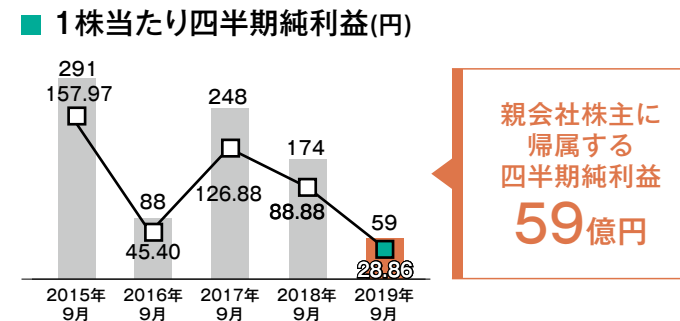
■ 売上高(億円)



■ 営業利益(億円)

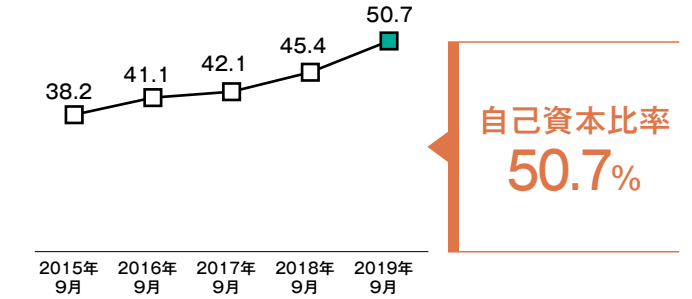


■ 親会社株主に帰属する四半期純利益(億円)

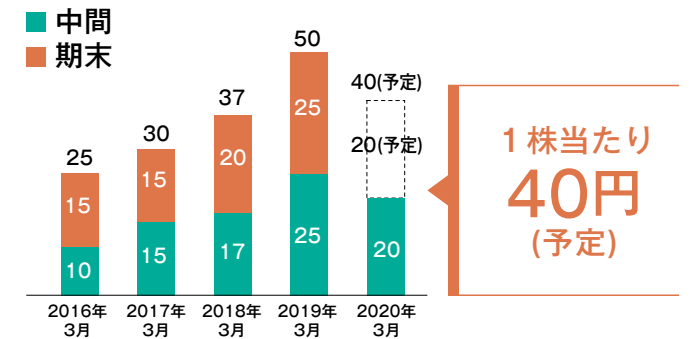


※2019/9為替レート: 米ドル/円 108.63・ユーロ/円 121.42

■ 自己資本比率(%)



■ 配当金推移(単体)(円)



※2019年中間期までは旧アルプス電気単体の配当金額です。

通期の見通し (2019年9月27日修正開示)

2020年3月期 業績予想	
売上高	8,590億円(前期比 0.9%増)
営業利益	485億円(前期比 2.3%減)
経常利益	405億円(前期比 7.1%減)
親会社株主に帰属する当期純利益	225億円(前期比 1.7%増)
想定為替レート	米ドル/円110・ユーロ/円125
1株当たりの配当金(単体)	20円(中間) 20円(期末・予定)



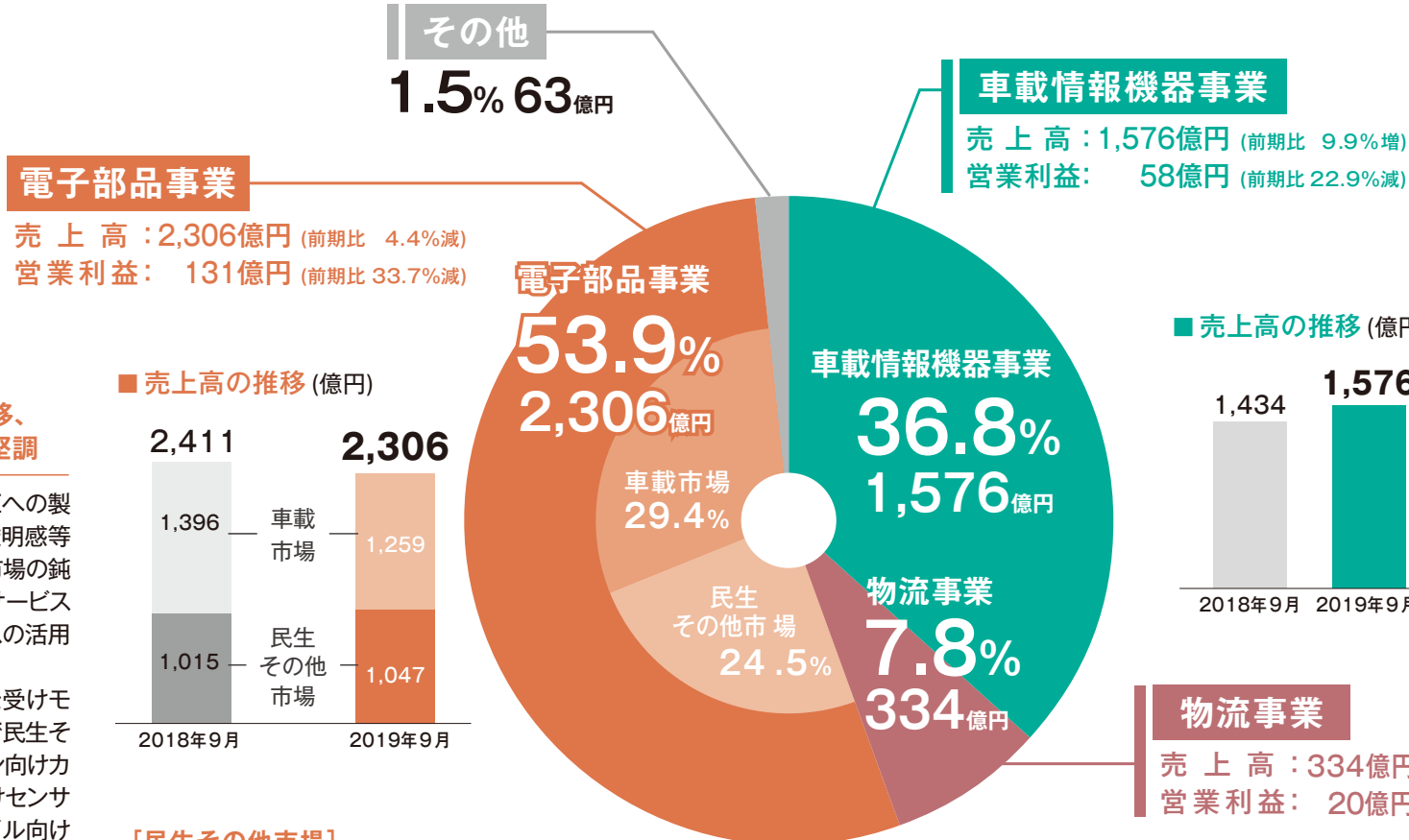
車載市場は自動車市場悪化の影響を受け軟調に推移、民生その他市場は新規顧客開拓や拡販活動により堅調

エレクトロニクス業界においては、自動車市場ではCASEへの製品開発が加速する中、米中貿易摩擦や欧州での先行き不透明感等から低調となりました。スマートフォン市場も、中国を中心に市場の鈍化傾向が続きました。EHII各市場では、IoTにかかる新たなサービスやセキュリティ技術などが続々と開発され、AIやロボティクスの活用等も含め、今後の成長への期待を抱かせるものとなりました。

この中で、車載市場では自動車販売が景気減速の影響を受けモジュール製品や通信用高周波製品が軟調傾向となり、一方で民生その他市場では新規顧客開拓や拡販活動により、スマートフォン向けカメラ用アクチュエータやタッチパネル、ウェアラブル製品向けセンサが堅調に推移しました。全体では、車載市場の軟調をモバイル向け製品の増加で補いきれず、前年同期比で営業利益は減少しました。

[車載市場] 5Gでのソフトウェアライセンス契約を米クアルコムテクノロジー社と、触覚技術に関連する協力協定を米イメージョン社と締結

世界的な自動車市場悪化の影響を受け、各種製品が全般にわたって軟調に推移しました。この中で、次世代自動車向け5Gプラットフォームでのソフトウェアライセンス契約を米クアルコムテクノロジー社と、また触覚技術に関連する製品創出での協力協定を米イメージョン社と締結するなど、次世代製品創出への動きを進めました。



[民生その他市場] IoTで物流管理プロジェクトの推進

モバイル市場において、新規顧客開拓や拡販活動によりスマートフォン向けカメラ用アクチュエータ、タッチパネル、ハプティック®、センサが堅調に推移しました。製品開発では、タクトスイッチ®、デジタル気圧センサなどの新機種を市場投入しました。EHIIでは、シグフォックス(仏シグフォックス社が提供するIoT向け無線通信規格)等を利用したIoT物流管理プロジェクトの推進やドローンによる架空地線自動追尾点検の実施、光ネットワーク向け新製品の発表等、具体的な活動を展開しました。

※ハプティック®、タクトスイッチ®はアルプスアルパインの登録商標です。

車載情報機器事業

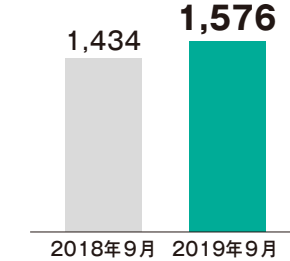
売上高：1,576億円 (前期比 9.9%増)
営業利益：58億円 (前期比 22.9%減)



統合シナジーの早期実現に向けた新製品開発を加速

ディスプレイ製品と電子部品事業のセンサを連動させた新製品開発や、ナビゲーションのGPS(Global Positioning System)と画像処理技術及びセンサを加えた技術を活用したドローンシステムの実用化に注力するなど、経営統合によるシナジーの早期実現を加速させています。また、音響スピーカーの開発で培った技術を応用した車両接近通報システムの開発を進め、更にカーシェアリング向けデジタルキーの開発のため、IT企業のフリービット株式会社(東証一部)の一部株式を取得し、業務提携によるCaaS(Car as a Service)ビジネスの強化を図りました。

売上高の推移 (億円)



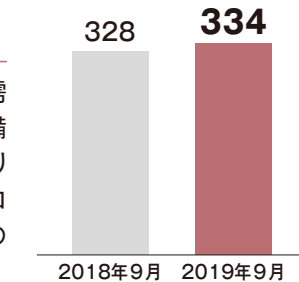
物流事業

売上高：334億円 (前期比 1.9%増)
営業利益：20億円 (前期比 3.0%増)

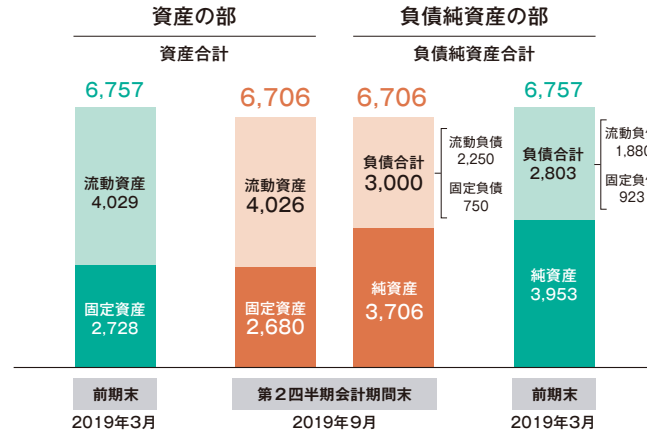
海外ビジネス拡大を目指し、拠点拡充や合併会社設立

(株)アルプス物流(東証二部)では、今後の電子部品の需要拡大が見込まれるアセアンを中心に、HUB拠点の整備とネットワークの充実を進め新規取扱貨物量の拡大を図りました。また、車載関連物流強化の一環として、株式会社ロジコムと合併会社を設立し、海外での車載関連ビジネスの拡大を目指します。

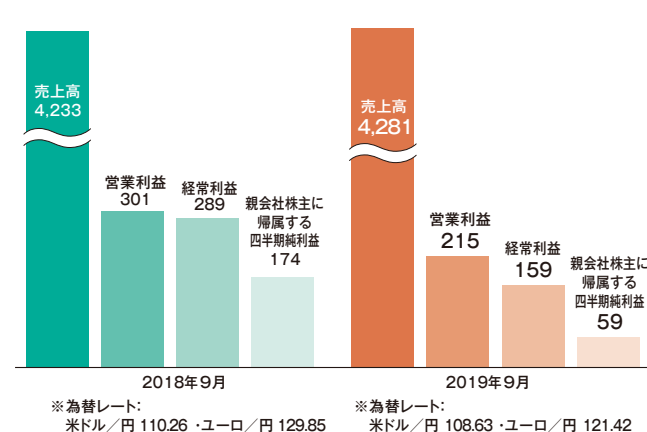
売上高の推移 (億円)



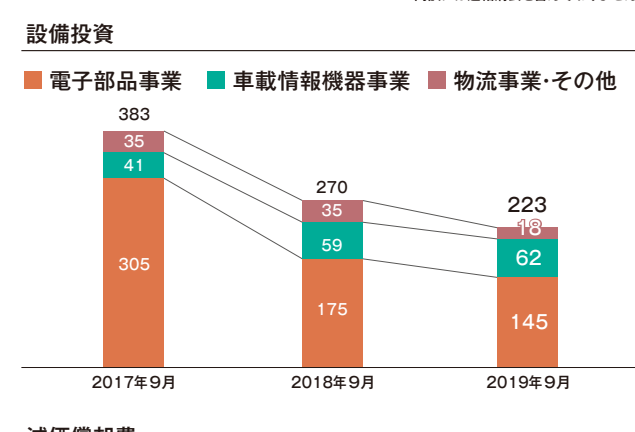
■ 連結貸借対照表の概要(億円)



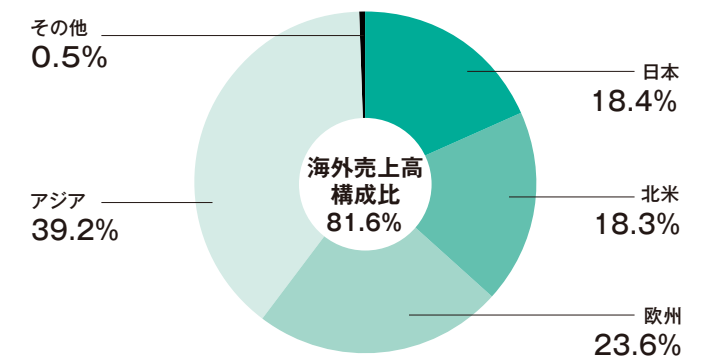
■ 連結損益計算書の概要(億円)



■ 設備投資・減価償却費・研究開発費の推移(億円)



■ 地域別売上高構成比



ポイント

① 流動資産

流動資産は、現金及び預金の減少と、受取手形及び売掛金の増加等により、前連結会計年度末と比べ2億円減少の4,026億円となりました。

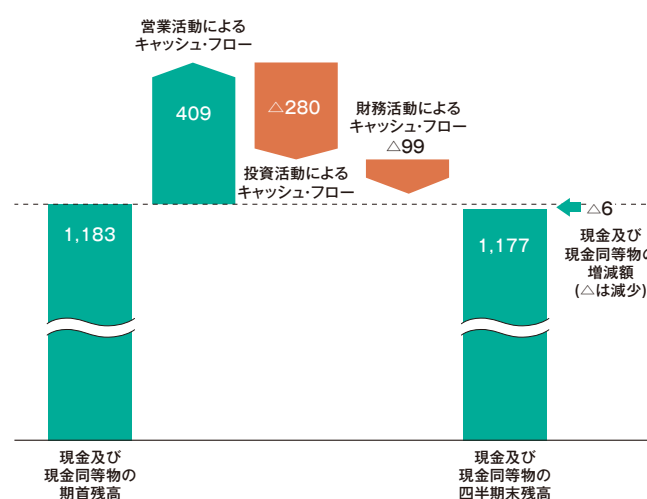
② 固定資産

固定資産は、機械装置及び運搬具、繰延税金資産の減少と、建物及び構築物の増加等により、前連結会計年度末と比べ47億円減少の2,680億円となりました。

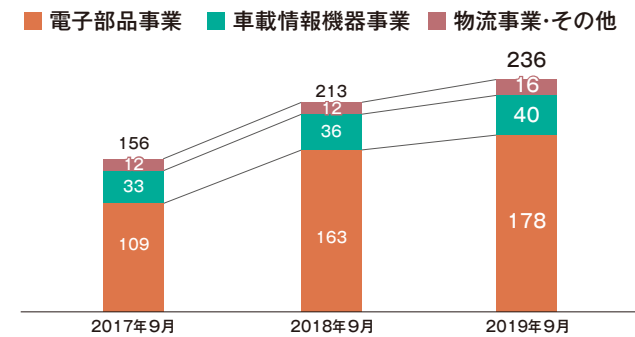
③ 負債合計

流動負債は、短期借入金、支払手形及び買掛金の増加等により、前連結会計年度末と比べ369億円増加の2,250億円となりました。
固定負債は、長期借入金の減少等により、前連結会計年度末と比べ172億円減少の750億円となりました。

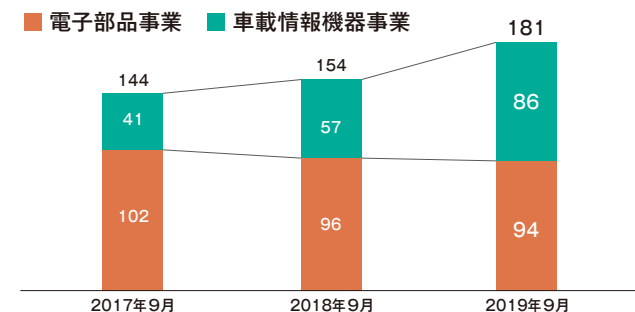
■ 連結キャッシュ・フローの概要(億円)



減価償却費



研究開発費

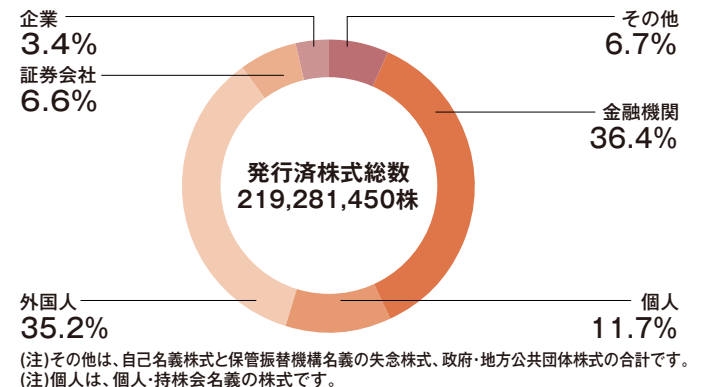


■ 株式の情報(2019年9月30日現在)

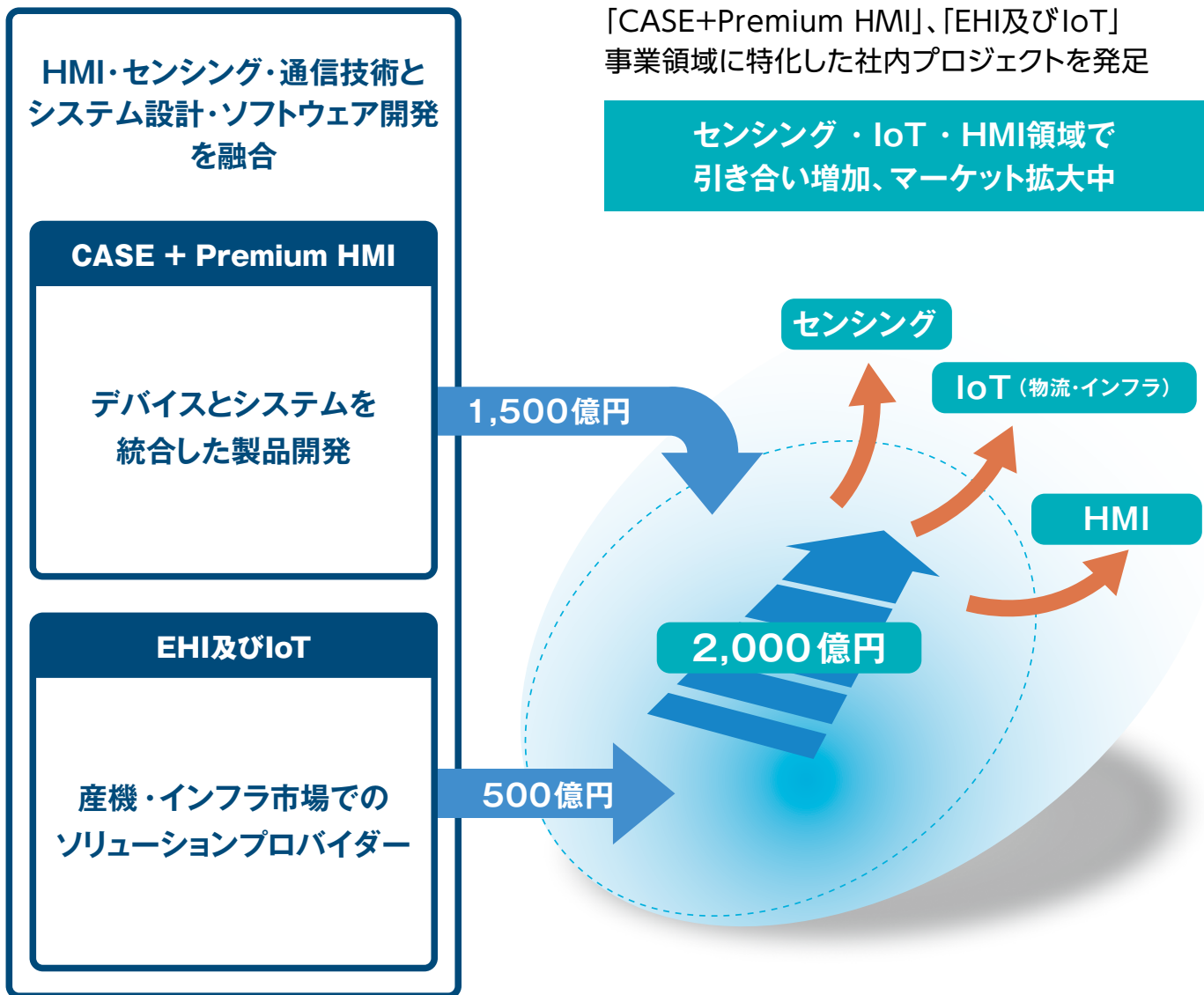
大株主の状況

順位	株主名	所有株式数	持株比率
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	29,460,500	13.44%
2	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	15,443,800	7.04%
3	アルプスアルパイン株式会社	14,622,965	6.67%
4	UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	14,544,267	6.63%
5	クレディ・スイス証券株式会社	4,136,007	1.89%

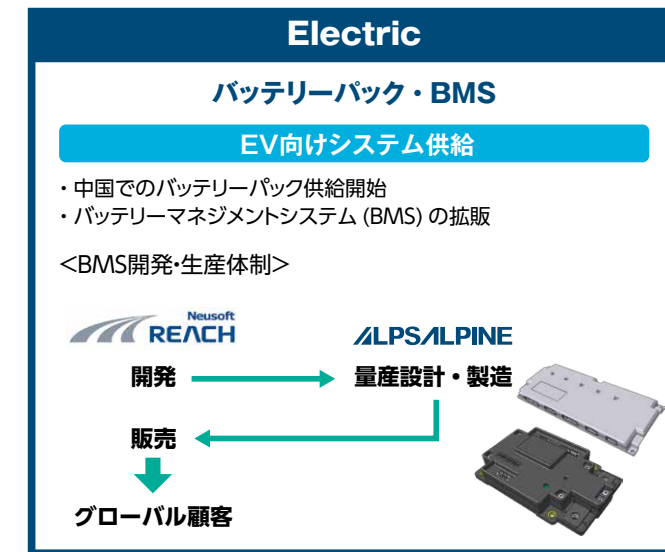
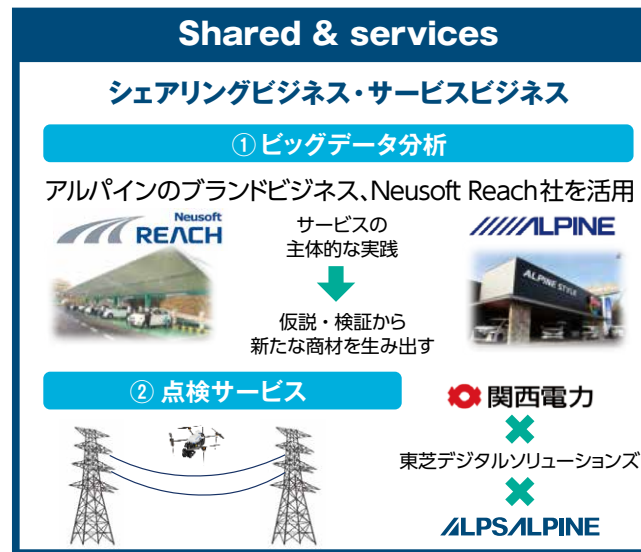
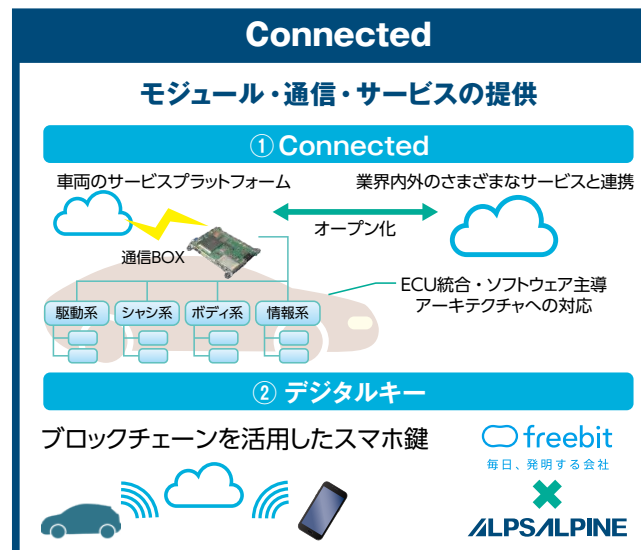
所有者別分布状況



注力領域への取り組み



CASE対応



■ センシング、HMI製品開発

ADASレーダーに加え、Euro NCAP2022 対応へ乗員検出センサモジュールを開発中



Cabin Monitor System
乗員検出 センサモジュール

周辺検知カメラ/レーダ
フュージョンIP

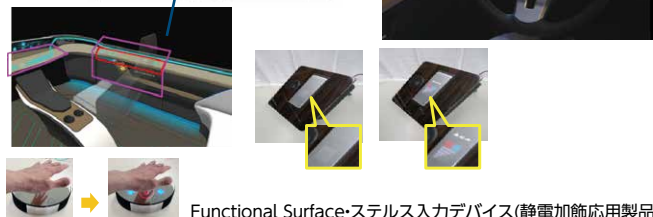
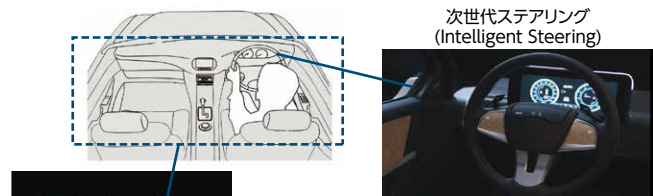


障害/モーション検出
ミリ波センサモジュール

・測距、画像処理、認識技術を融合した複合システム提案でアプリケーション拡充を進行中



静電センサ、HAPTIC™、加飾・照光技術を組み合わせた次世代 HMI を提案中



・米イマージョン社と触覚技術に関する製品創出における協力協定を締結
・当社デバイスと米イマージョン社の先進的なソフトウェア・制御アルゴリズムなどを融合させた、操作性及び多様性を高めた高付加価値製品の創出



■ IoT製品開発



・ドイツ大手物流会社Deutsche Post DHL Groupに提供しているアセットトラッキングソリューションには、カゴ台車のトラッキングとして活用が始まっている
・2019年7月、仏シグフォックス社とパートナーシップ協定を締結 今後グローバルのさまざまな物流現場へソリューション応用を展開



■ 振動センサ

設備保全・故障予知診断



■ アナログメーター遠隔監視システム



・LPWAとWi-Fi®を組み合わせ長寿命IoTデバイスを開発 インフラメンテナンスの省力化、コスト低減へとなる各種センサノードを開発

グローバルに広がる先進技術の協業と経営統合によるシナジーで、ITC101達成にアプローチしていきます。

2019年7月23日発表

KEY WORD **ブロックチェーン**

CASE時代の車載システム開発を実現するため、フリービット社と包括提携

当社とフリービット社は、シームレスカーライフの実現に向けて包括提携を締結し、CASE時代における車載システムの共同開発を更に進化させていきます。同時に発表した「The Log」は、共同で取り組んできたブロックチェーン技術※を活用し、情報の改ざんを防ぐログ保管技術で、今後、自動車業界を支えるITインフラ技術として展開することを目指しています。

※ ブロックチェーン技術：分散型台帳技術。データベースの一部を共有化することで、透明性、信頼性を確保する。

2019年8月27日発表

KEY WORD **IoT**

仏シグフォックス社と協定を結び、IoTソリューションをグローバルに展開

IoT分野で、フランスのIoTサービスプロバイダーであるシグフォックス社とパートナーシップ協定を締結し、グローバル展開の強化を図ります。共同開発を進めている「バブル」ビーコンは、物体の位置を高精度、低消費電力、低コストに検知する技術として、物流分野を中心に幅広い応用が期待されます。

当社の量産技術とシグフォックス社のネットワーク技術の融合により、国内外のIoT市場に新たなサービスでアプローチしていきます。

2019年9月5日発表

KEY WORD **5G**

車載5G強化に向けて、米クアルコム子会社 (クアルコムテクノロジー社)とソフトウェアライセンス契約を締結

5G※に関連する技術開発や製品化を推進するため、米半導体大手クアルコム社の子会社(クアルコムテクノロジー社)と5Gモジュールのソフトウェアライセンスを締結しました。これにより、クアルコム社の次世代自動車向け5Gプラットフォーム「Snapdragon™」などへの対応が可能となります。

今後、車載用通信モジュールの製品化や複合型通信ユニットの開発・量産を加速させ、自動運転などCASEの事業拡大につなげます。

※ 5G：第5世代高速通信システム。大容量のデータを高速で通信できる。

2019年10月2日発表

KEY WORD **HMI**

米イマージョン社との協力協定で広がる触覚技術の可能性

タッチフィードバック テクノロジーをリードする米イマージョン社と、触覚技術に関する製品創出における協力協定を締結しました。2000年に自動車用入力デバイス分野でのライセンス契約を締結し、さまざまな製品の開発・製造・販売を行っていますが、今回の新たな協定により当社のHMI※技術と、イマージョン社の先進的なソフトウェア・制御アルゴリズムなどを融合させた、操作性と多様性に優れた製品創出を共同で進めていきます。

※ HMI：Human Machine Interface。ヒトと機械が情報をやり取りするための手段、装置などの総称。

2019年
6月

●アルプス・ヨーロッパ、DHL社、及びシグフォックス社が物流用カゴ台車管理の追跡ソリューション推進に合意

当社海外法人アルプス・ヨーロッパ(ドイツ)、大手物流会社DHL社(ドイツ)、大手IoTサービスプロバイダー シグフォックス社(フランス)の3社は、統合的な物流システムの最適化を図るパートナーシップ推進に合意しました。これは、アルプス・ヨーロッパ開発の物流管理用IoTデバイスを用い、DHL社がドイツ国内で使用する1日500万個の輸送貨物用カゴ台車の維持・管理を行うプロジェクトであり、産業IoTビジネスの一層の拡大を図ります。



無充電で10年以上の連続稼働

●イタリアのスピーカーメーカー ファイタル社との関係を強化

当社は、昨年11月に資本参加した高級スピーカー専門メーカー ファイタル社(イタリア)の出資比率を引き上げました。これは、今後自動運転化が進むことに伴い、車室内でより快適に過ごすため、カーオーディオなどの良好な音質などが更に重要性を増すことに着目し、同社との関係を強化するものです。これにより、スピーカー製品の開発力強化や品質向上を図り、更に魅力ある音響製品を提案していきます。

2019年
7月

●車種専用リフトアップ3WAYスピーカー「用品大賞2019カーAV部門賞」受賞

当社の車種専用リフトアップ3WAYスピーカーが「日刊自動車新聞 用品大賞2019 カーAV部門賞」を受賞しました。当製品は高品質なサウンドに加え、ツイーターが自動昇降する機構により、音質とビジュアルとの両立が高く評価されたものです。



用品大賞を3年連続受賞

- フリービット社と提携、ブロックチェーン技術開発を強化
- 2019年度第1四半期決算発表

2019年
8月

●宮城県企業立地セミナーにて栗山社長が講演

当社栗山社長が「宮城県企業立地セミナー」(東京)において、「東北から世界に」と題した講演を行いました。当セミナーは宮城県への企業誘致を目的とし、同県内で当社グループ社員約6,000人が就労、県の産業発展に貢献していることから講演依頼があったものです。

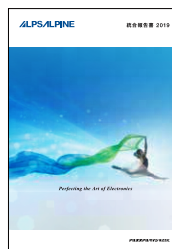
当日は「地域に役立ち、地域に根付く」という理念の下、当社の東北展開50年以上の歴史から、東北大学や地方自治体との産学連携など地域に密着したビジネス展開、東北の魅力などについて講演しました。

また、これに先立ち、村井嘉浩宮城県知事が本社に来訪されました。



村井県知事(右)と

講演する栗山社長

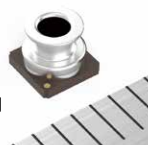


●統合報告書2019を発行

詳しくは、URL: <https://www.alpsalpine.com/j/ir/annual.html> をご覧ください。

●気圧・水圧を1つのセンサで計測

デジタル防水気圧センサの量産を開始



ウェアラブルデバイスやガスメータなどの流量計に使用

2019年
10月

●2019年度第2四半期決算発表

2019年
5月

英JLR社より「ジャガーランドローバー サプライヤーエクセレンスアワード」を受賞

英ジャガーランドローバー社(JLR社)が優れたサプライヤーを選出する「ジャガーランドローバーサプライヤーエクセレンスアワード」の授与式が開催され、当社は世界各地の15社とともに表彰を受けました。当社はゴールド賞を受賞しており、これは約30年にわたる、顧客ニーズに寄り添った車室内デバイスの開発活動が認められたものです。旧アルプス電気とアルパインの統合シナジーにより、これからも高いパフォーマンスの発揮に努めていきます。



2019年
6月



米GM社より「サプライヤー・オブ・ザ・イヤー」を5年連続受賞

米ゼネラルモーターズ社(以下、GM社)の年間表彰において、2018年度の「サプライヤー・オブ・ザ・イヤー」を受賞しました。これは、GM社の2万社を超えるサプライヤーの中で、当社の継続的な技術提案力、課題解決力が高く評価されたものです。

当社としては5年連続の受賞となり、旧アルプス電気としては、2017年度に同表彰の「イノベーションアワード」も受賞しています。今後も、GM社をはじめ自動車メーカー各社へ高い価値を提供していきます。



詳しいIR情報は当社ホームページをご覧ください。

<https://www.alpsalpine.com/j/ir/>

5Gによって自動車を取り巻くさまざまなサービスをシームレスにつなぐ「シームレス・スマート・モビリティ・ソリューション」コックピットの提案をはじめ、次世代自動車の室内空間の利便性・快適性といった新たな付加価値を生み出す Premium HMI、IoT市場における最新の導入事例などを紹介しました。

家電・IoT見本市 CEATEC2019

10月15日～10月18日 幕張メッセ



「つながる社会、共創する未来」



CASEへの各種取り組みや、次世代自動車の室内空間に利便性・快適性といった新たな付加価値を生み出す Premium HMI テクノロジー、IoT市場における最新の導入事例などを紹介しました。

「シームレス・スマート・モビリティ・ソリューション」
コックピット



ハプティック® リアクタ



ブロックチェーン活用のデモ

第46回東京モーターショー 2019

10月24日～11月4日 東京ビッグサイト



「OPEN FUTURE」



新規ビジネスの機会創出などを目標として、コックピットや音響技術によって次世代自動車の室内空間に利便性・快適性をもたらすプレミアムサウンドのテクノロジーを紹介しました。



第86回定時株主総会開催

6月21日、本社ホールにて第86回定時株主総会を開催し、377人の株主の皆様にご参加頂きました。

経営統合後初の定時総会となった今回、5つの議案が上程され、いずれも賛成多数により原案通り承認、可決されました。

株主様からは、経営統合のシナジーや中計の見通し、昨今の市場に対する当社の取り組みに関して、ご質問やご意見を頂き、栗山社長、米谷副社長、及び担当役員が丁寧に回答しました。



新任取締役のご紹介

第86回定時株主総会において、新任取締役2名が選任されました。



取締役 ささお やすお
笹尾 泰夫

1983年4月 当社入社
2019年1月
当社 常務執行役員 技術担当 兼
アルプスカンパニー
新コンポーネント事業担当 兼
アルプスカンパニー技術本部長



社外取締役 ごみ ゆうこ
(監査等委員) 五味 祐子

1999年4月 弁護士登録
2012年1月
国広総合法律事務所パートナー(現任)
2019年5月
株式会社ローソン 社外監査役(現任)

技術は、アートに回帰する。



アート(芸術)の語源は「技術」であり、古くはその区別はなかったとも言われています。技術を極限まで追究し続けることで、私たちはアーティストのように、社会に新しい価値を提示することができるはずです。未来社会をカタチにして、見せていく。それも私たちの役割です。

インプットのスペシャリスト「アルプス」と、アウトプットのスペシャリスト「アルパイン」の融合、それは新しい時代に必要な価値を創造し、さらなる飛躍を目指す私たちの挑戦なのです。